


公益社団法人日本心理学会研究集会等助成金成果報告書

| | | | |
|-----------------|--|----|--------|
| 代表者氏名 (ふりがな) | 坂上貴之 (さかがみたかゆき)  | 所属 | 慶應義塾大学 |
| | | | |
| 研究集会等名称 | 行動数理研究会 | | |
| 成果概要 | <p>1) 参加人数 (会員・非会員及び認定心理士の人数を記載してください)</p> <p>会員 15名 (うち認定心理士 名) 非会員 10名 (うち認定心理士 名) 学部学生は含まない。</p> <p>2) 集会等の目的・成果等 (実施内容・成果・将来計画等を用紙範囲内に記載してください)</p> <p>本年度で19回となる行動数理研究会を、2011年9月20日(火)10時より15時30分までのスケジュールで、慶應義塾大学三田キャンパスの研究室棟1階A会議室にて開催した。プログラムの詳細と演者並びに題目は以下の通り。</p> <p>10:10-11:00 話題提供 山岸直基 (流通経済大学) パーセントailsスケジュール下での計数行動の獲得：行動変動性分化強化の履歴効果を検討する</p> <p>11:00-12:00 特別講演 Richard W. Malott (Western Michigan University) Everything We Know about the Experimental Analysis of Behavior is Wrong</p> <p>12:00-13:00 昼食 (Malott先生を囲む小パーティを企画中)</p> <p>13:00-13:30 ビジネスミーティング</p> <p>13:30-14:20 話題提供 正野裕大 (駒澤大学) 条件性弁別課題における刺激間関係の形成に関する検討</p> <p>14:30-15:20 話題提供 畑 秀明 (大阪市立大学) キーつき反応を用いたハトのゲーム場面における協力選択～ゲーム構造と対戦相手の方略の効果～</p> <p>本プログラムからわかるように、本年度は、国際行動分析学会の会長である Malott氏に特別公開講演をお願いした。このために、他の学会からの援助も仰ぐことで開催にこぎつけた。</p> <p>通常の講演については、大学院生を中心に熱心な議論が交わされ、その様子は講演記録集に収録されている。</p> | | |